

平成 21 年 4 月 29 日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18401032
研究課題名 (和文) バクトリアのギリシア都市の美術・考古学調査
ーウズベキスタン共和国カンピール・テパ
研究課題名 (英文) Archaeological Investigation of an Ancient City in Bactria
-Kampyr-tepa in Republic of Uzbekistan
研究代表者 芳賀 満 (MITSURU HAGA)
京都造形芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号：40218384

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：美術史、東洋史

キーワード：東洋史、西洋古典、古代ギリシア、古代ローマ、古代オリエント、地理情報工学 (GIS)

1. 研究計画の概要

中央ユーラシア、さらにその中央のバクトリア地方は、東西南北の交流の要点として世界史上極めて重要であるが、東西の狭間に陥りその研究の遅滞は著しい。

研究代表者はウズベキスタン共和国芸術アカデミーのジャンガル・イリヤソフ氏を共同パートナーとし、日本・ウズベキスタン合同発掘調査隊を組織し、アム河右岸の渡河点の古代都市カンピール・テパの発掘調査を実施した。

2. 研究の進捗状況

2006 年度には、創成期のギリシア王朝時代の都市があると考えられる、テパ中央部のツィタデリ (内城) の、西区と東区の発掘を実施した。まず、テパの最上層が後 2 世紀初期クシャン朝カニシカ王時代であることを確認した。西区では一部で地山に達したので、該当部分の西方斜面にトレンチを設け、そのことを確認した。また西区では拜火祭壇を有する部屋、大瓶を多数備えた貯蔵室をも検出した。

2007 年度にも西区と東区の発掘を継続し、特に西区において、後 2 世紀初期から紀元前後の層位まで発掘調査を進め、この間に 4 期を認めた。

2008 年度にも西区と東区で発掘調査を進め、西区のみならず東区においても、4 期があることを解明した。従って都市全域にわたり 4 期 (クシャン朝時代以前の都市計画 クシャン時代初期に都市プラン変更 一時的に放棄 カニシカ時代に再び整地・建造物建立 テパ全体の放棄) があると見なすことができ、この時期の都市の発展の様相の解明に成果をあげた。

同年度の特筆すべき成果は東区で前 300 年頃の

遺構を検出するに至ったことである。層位関係、カーボン 14、土器及び煉瓦の編年の全てがこの年代決定を肯定する。カンピール・テパは、少なくともセレウコス朝時代にまで遡る、中央ユーラシアにおける極めて貴重な古代都市遺構であることが明瞭となった。

特筆すべき遺物は、2007 年度出土のテラコッタが挙げられる。抱擁・接吻している二人の人物が表され、その図像にはヘレニズム的要素、インド・ガンダーラの要素の融合を見ることができる。ディオニュソスとアリアドネと解され、おそらく土着のディオニュソス教の祭具であろう。仏教図像の中に取り込まれたディオニュソス関連図像の研究、ひいては在家信徒の観点からの原始仏教の研究をも大きく進展させる美術作品である。

なお他にも多数の遺物、土器が出土し、その図面化と編年、研究を進めている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

後 2 世紀のクシャン朝カニシカ王時代の表土層から掘り下げ、紀元前後からクシャン朝時代の都市の発展の様相を解明した。さらにアレクサンドロス大王遠征から 30 年後程の層位にまで達した発掘そのものは当初の計画以上に進展している。但し、整理作業に多大の労力と時間がかかる。

4. 今後の研究の推進方策

2009 年度は報告書の作成に労力と時間を傾注する。

将来も、世界史上極めて貴重な考古学遺産であるこの古代都市の発掘を継続したい。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

- 1) 芳賀満、古庄浩明、内記理、
「中央アジアのギリシア系都市を掘る－ウズベキスタン共和国カンピール・テパ遺跡第3次発掘調査」
『考古学が語るオリエント－西アジア発掘調査報告会報告集』16,2009,pp.125-130. 査読無し
- 2) 芳賀満、古庄浩明、宇野隆夫、相馬拓也、
「中央アジアのギリシア系都市を掘る－ウズベキスタン共和国カンピール・テパ第2次発掘調査」
『考古学が語るオリエント－第15回西アジア発掘調査報告会報告集』15,2008,pp.139-145. 査読無し
- 3) 芳賀満、古庄浩明、宇野隆夫、近藤さおり、長嶺睦
「中央アジアのギリシア系都市を掘る－ウズベキスタン共和国カンピール・テパ第1次発掘調査」
『考古学が語るオリエント－西アジア発掘調査報告会報告集』14,2007,pp.95-100. 査読無し
- 4) 芳賀満、
「ウズベキスタンの古代都市」
『京都造形芸術大学紀要 GENESIS』10, 2006, pp.64-89. 査読有り

[学会発表](計8件)

- 1) 芳賀満
「中央アジアのギリシア系都市を掘る－ウズベキスタン共和国カンピール・テパ」
日本西アジア考古学会、
2009年4月11日、天理大学

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]